

愛煙家の不安と不満

株式会社榎戸材木店
会長 榎戸正人

国会は政治と金の問題で揺れ続け、まともな政策論議ができない状況ですが、一段落して山積した課題の論議が始まると防衛費の増額や子育て支援の財源は本当に国民負担なしで出来るのかなどが真剣に論じられることになるでしょう。支出が増えるのなら、その財源を確保しなくてはなりません。現在の円安の一因は安易な赤字国債の発行により財政赤字が膨らみ続けていることで、スイスやドイツのように財政規律をきちんと守っている国は、やはり国際的にも信頼されます。やはり、増税は必要です。



好きなタバコ

増税が論議されると真っ先に矢面に立つのがタバコの増税です。お酒はたしなむ人が多いので増税すると反発を買いますが、タバコは健康に悪いとされて（私は世間で言われているほど健康に害があるとは思っていないのですが……）増税しても文句が出にくいからです。

4月に新年度が始まり、税制論議の結果、タバコ増税となると実施されるのは10月になるようで、一昨年も10月に大幅な値上げが行われました。今回は更なる大幅増税を検討しているようで、数年先には1箱1000円時代が来そうです。それでも欧米に比べれば安いのだそうで、嫌ならタバコを止めろということなのでしょう。私は意地でも止めるつもりはありませんが。

昔の著名な小説家の写真を見ると、原稿用紙を前にタバコをくわえ、執筆に悩む姿が多く見られます。ものを考え、煮詰まった時にはタバコはストレスを解消し、新たなインスピレーションを与えてくれる、重要なアイテムです。確かに健康に良いとは思いませんが、それでも執筆に行き詰まった時には一服が欠かせません。

そもそも、休憩することを「一服する」というのはタバコを吸って気分転換をすることから来ているわけで、タバコを吸わない人は何で気分転換しているのか、ストレスを解消しているのか聞いてみたいものです。

吸わない人には信じられないでしょうが、タバコにも美味しいものと不味いものがあります。日本のタバコの美味しさは世界に知れ渡り、韓国で日本製品の不買運動が激しさを増した時でも、コンビニではこっそりと売られていたそうです。写真は私が愛煙している普通のタバコとメンソールのタバコで、美味しいと評判で売り切れることすらあります。まだ、タバコを愛してくれる人はいるのですね。